



Title	五井持軒『和語集解』翻刻
Author(s)	湯城, 吉信
Citation	懷徳堂研究. 2017, 8, p. 81-121
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67831
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

五井持軒『和語集解』翻刻

湯 城 吉 信

『和語集解』は五井持軒（一六四一～一七二一）が日本語の語源を説いた書である。冒頭に「和語総論凡例」があり、言語法則について列挙した上で、いろは順に語を採録し、その意味や語源を解説している。この書は『国書総目録』に五井持軒の著作として挙げられる（『大阪名家著述目録』六七頁に基づく）がこれまで存在が確認されていなかった。ところが、平成二八年度、一般財団法人懷徳堂記念会が写本を購入し大阪大学附属図書館懷徳堂文庫に保管されることになり、その全容が明らかになった。後に述べるように、この写本は来歴が明らかで、手稿本に近い原本を忠実に模写したテキストであり、価値は高い。本稿では、このテキストの翻刻を提供したい。

【テキストについて】

縦二五・一cm×横一七・二cm。

七七葉（表紙に貼り付けてある見返しを加えると七八葉）。

太田蘆隱が今西正立の蔵本を写したものである。今西正立は蘭洲の弟子であり、⁽¹⁾太田氏の朱筆書入に言うように、その蔵本は手稿本でないにせよ、信頼度の高いテキストであることは確かである。また、太田蘆隱は、明治期、大阪人文会の会員として西村天囚に『蘭洲遺稿』などの資料を提供し、懷徳堂研究の先鞭をつけることに貢献した太田源之助である（『懷徳堂考』に見える）。このテキストには、太田氏による朱筆書入が多くあり、原本の様子を事細かに記述している。以上のように、このテキストは来歴が確かで、また、手稿本に近い原本の様子を忠実に模写した優れたテキストだと言える。その他、特筆すべき点として、中井木菟麻呂の名刺が挟まっている点が挙げられる（住所…兵庫県川辺郡川西村小戸／廿

五池田呉服橋西詰北入)。

【資料的価値について】

同時代に語源を解いた書として、貝原益軒『日本釈名』や松永貞徳『和句解(わくげ)²⁾』がある。これらの書に見える語源説と『和語集解』に見える語源説との比較は大いに研究する価値があるだろう。その語源説は互いに影響関係があるのか、また『和語集解』には独自の説が見えるのかなど、興味深い点である(いくつか確認したところ、類似する説もあれば、持軒独特と思われる説もある)。

持軒は京都遊学時代、益軒と交流があり(蘭洲「持軒先生行状」参照)、『和語集解』でも「貝原ノ説」として言及される。凡例に見える内容も益軒著『日本釈名』凡例における和語を説く八つの要訣を意識しているのかもしれない。また、『蘭洲茗話』には益軒が持軒説を盗んだという記述もある(上十六才…やまとは「山外」に由来するとする説)。

ただ、構成については、益軒は、「天象」「時節」など部門を立てて分類するのに対して、持軒は発音順(いろは順)に並べている。持軒には発音に意味があるという点を浮き立たせる狙いがあったのであろうか(ちなみに、

『和句解』もいろは順である)。

この『和語集解』には、しばしば「紀氏ノ説」が取り上げられている(だいたい「音語」であるとする説)。この「紀氏」が誰でどの書に見える説かはまず明らかにすべき点であろうが、筆者には明らかにできていない。『和句解』の著者の松永貞徳かと思った(松永氏は紀氏の系統という)が、内容が一致しないし、東西南北についての語源説がまとまって出てこない点、持軒の言う「紀氏ノ説」に合わない。「紀氏ノ説」として意味を書いている箇所(東など)を見る限り、益軒かと思うがこれもちゃんと対応するわけではない(例えば、「北」)。その他、可能性があるのは、清原宣賢『日本書紀抄』あたりであろうかとも思ったが、未詳である。

なお、この書の後世(特に懷徳堂関係者)への影響については、直接的には蘭洲への影響が見られる(『茗話』にいくつか見える、本稿でも注記した)他、間接的には履軒(『画觴(えくじり)』を指摘することができる。ただ、これも調査すれば様々見つかるであろう)。

注

(1) 今西正立 一六八三〜一七六一年。江戸時代中期の医師、神職。五井持軒に儒学を学び、詩もよくした。名は玄芳(一説

に春芳)、字は陽甫、別号に白野。著作に、『江南詩祖』『豊島郡誌』がある(『大阪名家著述目録』『大阪人物誌』など)。

『蘭洲先生遺稿』上92bに、三宅石庵が持軒の弟子を奪ったことを非難する内容が見える。その中に、長崎克之などが持軒を捨て石庵に従ったのにも関わらず、今西正立だけは残り、医者として得意の五行説で石庵をやりこめたので、石庵の弟子からは仇のように思われたと言う。(『懷徳堂考』上14に見える。原文「:先人門人長崎克之:皆從宅子。今西正立独守旧業、憤曰、万年設術奪我先生門人云。宅子每破五行説。正立医人也、信五行、每相問難、不少屈。是以宅門諸子視正立如寇讐。」これからすると相当勝ち気な人であったようだ。他、同じく『蘭洲先生遺稿』上62bにも今西正立の名が見える(ここでは病気を除くと命が延びるという正立の考えに反対している)。

また、江戸初期から天保に到るまでの漢詩人の作品を集めた『熙朝詩薈』の巻三九には、今西正立の詩が収録されている(『日本の漢詩人と名詩』第五巻、ゆまに書房、一九八三年)。また、これらの詩と同じ題で蘭洲も作品を残しており、同書巻二二に見える。

(2) 『和句解』 日本最初に出版された語源辞書。言語遊戲的解釈が多い。「貞徳の洒落を学ぶ本」という評価もあるようだ(濱田啓介氏)。語の選定では『節用集』の影響が見られるとい

う(土居文人著『語源辞書松永貞徳』『和句解』本文と研究』(和泉書院、二〇一五年)序)。

【凡例】

- ・適宜、句読点を施した。
- ・漢字は通用字体を用いた。
- ・合字(トモ、ト云、シテ)はカナに直した。
- ・カナの大きさが違う場合にはできるだけ原文の様子を反映した。

・濁点は原文では付いている場合と付いていない場合がある。本稿では、適宜補った。

・書名には『』をつけた。

・「*」の後のことは湯城による挿入である。

・葉数は、一葉表は1a、一葉裏は1bのように表した。

・朱筆は、抄者太田氏による書入であり、今西氏原本の原貌を詳しく述べているので、そのまま収録した。

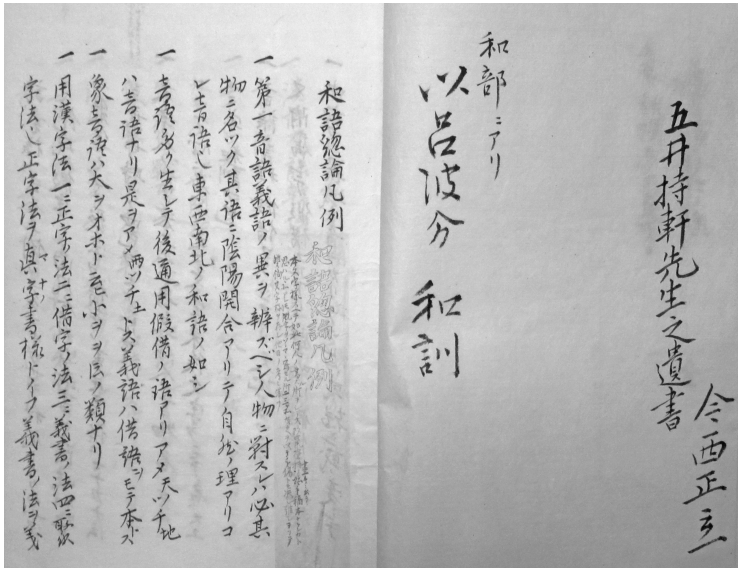
・見せ消ちが見られる箇所などに校勘記をつけた。

【翻刻】

〔外題〕(書き題箋) ..

和語集解

〔見返し〕(裏)貼り付けてある部分(原表紙)..
庚戌晩春借今西氏蔵本写之。印「蘆隱清玩」



図『和語集解』冒頭部分
(財懷徳堂記念会提供)

(朱筆)塗抹改竄一々原本ノ旧ニ從ヒ私意ヲ以テ改寫ス
ルコトナク務テ其ノ旧觀ヲ存ス。故ニ予ノ誤写ニ属スル
モノ白粉之ヲ抹シ以テ之ヲワカツ。字体マタ専ラ原本ニ
從フ。庚戌^{*}晩春

【注】○庚戌 一九一〇年か。

〔内題〕..

五井持軒先生遺書

和語集解 全

〔裏〕..

今西正立

五井持軒先生之遺書

和部ニアリ

以呂波分 和訓

1 a

和語総論凡例

*横に双鉤の字あり。横に以下の朱筆書き入れあり。(と
もに貼り紙の上)

「本文字様スベテ如此。何人ノ書スル所ヲシラズ。改竄
塗抹ノ跡、尽ク一手ニ出デ、手稿本ナランカト思ハルル

所アレドモ、脱字ヲソノママ写セル所、二三ヶ所有之ヲ以テ、手稿トモ決シ難シ。ヨリテ双鉤其(文?)字様ヲ存シ、他日ノ考ニ備フ。」

【校勘】○尽ク一手ニ出デ 後からの挿入。

一 第一、音語、義語ノ異ヲ辨ズベシ。人物ニ対スレバ必其物ニ名ヅク。其語ニ陰陽開合アリテ自然ノ理アリ。コレ音語也。東西南北ノ和語ノ如シ。

一 音語、多ク生ジテ後、通用、仮借ノ語アリ。アメ天、ツチ地ハ音語ナリ。是ヲアメ雨、ツチ土トス。義語ハ借語ヲモテ本トス。

一 象音語ハ大ヲオホト云ヒ、小ヲヲト云ノ類ナリ。

一 用漢字法、一ニ正字ノ法、一二ニ借字ノ法、三ニ義書ノ法、四ニ聚字法也。正字法ヲ真字^{マナ}、書様トイフ。義書^{マナ}法ヲ義

1 b

読ノ書様ト云。今、一例ヲアゲ。アキカゼヲ秋風トカクハ正字也。飽風ハ仮字也。商^{*}風、金風ハ義書也。阿岐加勢ハ聚字也。コノ聚字ヲ借音^{*}書トモ云フ。俗ニマナカナト云。『万葉集』ノ時コノ四色^{*}ヲモテシルセリ。

(書眉朱筆) 色字書法別手ニ出ヅルモノノ如シ。墨色マタ大ニタガヘリ。

一 文字ハ人ノ言也。本土上古無文字。人ノ言、物ニ名ヅケ、事ニナヅケ、心ニ名ヅクユヘニ、文字来後、文字ヲモテ名トス。ユヘニ字ノ和訓ナ也。

一 言語ノ義理ハ仮借ヨリハジマレリ。天地アメツチヲ雨土ニカル。又、附属シテ仮借スルアリ。譬喩シテ仮借スル也。

一 中古ヨリ異域ノ音ヲカリテソレヲ或ハ転ジ或ハ変ジテ

【校勘】○商 原文では「敵」の左部分だが改めた。

2 a

和語トスルアリ。ラン蘭、フミ文、ゼニ錢ノタグヒナリ。

一 漢語、梵語、韓語アリテ交ハレリ。梵韓ノ二音ハ和語ニチカシ。漢語ハ遠シ。

一 五十字ニ各字ゴトニ音声ノ釈意義ノ釈アリ。ヲクブガキ事也。世間知者スクナシ。

一 草木鳥獸、本土これなくて(ママ)和語アルアリ。トラ虎、キザ象ノ類ヒ也。其音ヲ転ジテ直ニ和語トスルアリ。先ニ見ユ。

一 漢字来ニヨッテハジメテ和語ヲツクレルアリ。

一 上古ノ和語ハトキヤスク、後世ノ^{*}和語ハカタシ。上古ハタダ和語ノミ、後世ハ異国ノ音マジワレリ。

(書眉朱筆) ク(*横棒なし)、恐ノ。

【校勘】○ノ 原文は「ク（横棒なし）」。書眉のコメントの通り、「ノ」の誤りと解した。

2 b

一 通音、上代オホシ。昔ヨリ通音ニアラズンバ、今初テ通ズル事ナカレ。

一 通音ニ、正通アリ、辺通アリ。各意義アリ。

一 名ト物トタガヘドモ、本名ニヨレルアリ。古ヘフミハ皆マケリ。今或ハタチ、或ハタタメドモ、ナヲ一マキト云ガ如シ。

一 用語ヲカリテ物ノ名トスルアリ。名ハ同ジクテ異ナル物アリ。語ノ同ジクテ義異ナル物アリ。

一 和語一語ニシテ両三義カヌルアリ。平声、去声、上声ニヨルニアラズ。シノブト云ニ三義アルガ如シ。（注

三義トモニ平声ナリ。

一 発語アリ。アカサタ等ナリ。

3 a

一 裳語アリ。音声ラムスビオホフノコトバ也。

一 上省ノ語アリ。中省アリ。下省アリ。再省ノ語アリ。半省アリ。太省アリ。

一 二語アヒヨルアリ、相反スルアリ。ニヲノ二ツノゴトシ。

一 語辞ニ、キノフ、ケフ、アスノ三種アリ。行ニテイ

ハバ、ユキシハキノフ、ユクハケフ、ユカンハアスナリ。

一 体語アリ、用語アリ。アフギハ体也。アヲクハ用也。

一 語辞ニ緩急ノフタツアリ。

一 前ヲウクルノ語アリ。サレバ、サ、サテモ、カクテナドノ類ナリ。

（書眉朱筆）サ下脱字。原本カクノ如シ。蠹食ノ故ニアラズ。

3 b

一 後ヲオコス語アリ。転声シテ別義ナルアリ。重盈ノ語アリ。類語アリ。

一 空字ト助字同カラズ。裳語モ亦異ナリ。語中ノ空字アリ。句端ノ空字アリ。

一 一物二名ノ語アリ。ソデ袖、コロモデ衣手、ソハ衣也、テハ手也。此類甚多シ。二字ヨリ三字、四字ニ至ル物アリ。

一 省語ノ後、転語ニユクアリ。転語ノ後、省語ニユクアリ。

一 音語、母語アリ。相似タリ。語母ハ本語ナリ。本語ノ後末語アリ。

一 和語ニモ平声、去入ノ四声アリ。数字連聚スレバ相転変ス。

4 a

一 類用ノ語、トツクハ女子ノ外ニ繼ナリ。コレヲ類用シテ男女ノ交接ヲモトツグト云。

一 定語ハタノシミ也。用語ハタノシム也。象語ハタノシキ也。

一 対語アリ。対ニ順対、逆対アリ。又添語、便語ノ別アリ。改語アリ。相通ニヨツテアラタメ用ル也。

一 語ニ相応アリ。不相応アリ。冬来らばさむからん。コレ相応ナリ。冬来らばさむからん。コレハ不相応ナリ。冬来ればさむし。コレ相応ナリ。

一 ラリルレロノ五音*、和語ノカシラニコレナシ。

一 省語、約語、各別ナリ。省ハ上中下ノ省ナリ。約ハ通音

【注】○ラリルレロノ五音 契沖『和字正濫鈔』卷五で、「らりるれろのいつつは、和語において上にたつことなし」と述べている。

4 b

転ジテ語ミジカキニ変ズル也。

一 下ノ字ヲ上ノ字ノ内ニフクミテアラハレザルアリ。サリテハサアリテ也。サノ下*二アノ字ヲフタム。

一 語ツラナレバ清濁変ジテ、シカモ義ニ*ナキアリ。ツキ月、清声ナリ。カミナヅキハ濁声ナリ。又同語ニ

テモ清濁ニヨツテ義異ナルアリ。イサノゴトキ*、清声ナレバ不知ナリ。サノ字濁声ナレバ誘引ノ義ナリ。

(書眉朱筆) 二下ノ脱字、蠹食ニアラズ。

一 転声シテ異物ハア二兄、アネ姉ナリ。同字転声ハカミ上、カミ神ノ類ナリ。

一 一字ノ和語ニ至妙ノ義アリ。ギミ陰陽ノ類也。

【校勘】○下「字」を見せ消ちして直す。○イサノゴトキ(原文「イサノコトキ」)「いさノ時」を見せ消ちして直す。

5 a

一 偶然トシテ漢語梵語トヲナジキ也。

一 顛倒シテ義同ジキアリ。セナハ夫ナリ。ナセモ夫ナリ。

一 漢字和語両用ハヒノ国肥州、キノ国紀州ナリ。

一 平声、去声、上声、相転ジテ義同ジキアリ。

一 諸字ニ音語ヲミダリニトキテ義ツクルアリ。用ユベカラズ。

一 エケセテネメ等ノ字、五穀ニ用ユ。

一 レノ字、水ノ類ニ用ユ。

一 リノ字、人ノ類ニ用ユ。

一 鳥ニスノ字ヲ用ヒ、魚ニナノ字ヲ用ユ。

一 形象ノ蒙語 やか らか き けき けく

5 b

けさ けし しき しく めき めく るき なし た
り

一 禁止之語 与示教之語通用。

なけれ な なよ よ

一 命令之語

せしむ しむ

*以下、以呂波に分けて語を列挙する。各部、各葉表から始まる。全七一二語。

・語の多い部(三十語以上)・・イ、ヲ、カ、ツ、ク、マ、ア、サ、ミ

・語のない部・・利(り)部、留(る)部

・部立自体ない部・・ロ、レ、ラ、ヰ、オ、エ、エ

6 a

伊部

イ* アノ字ニツケリ。発端ノ語也。

イニシヘ 古 古ハ名ノミ残リテ今ハナキ也。空無ノ義ハ開清ノ音ニアラハルコトワリ也。去ヌル事ライニシヘト云也。

イニハイヌル也。イニシハ言葉ノヲヤ也。イニシ、イヌ

ル、シトヌルト、過去ノ語辭也。

ヘハスソノコトバニテウツホ字也。ヘノ字ヲソヘテ古ニナヅクル也。

イマ 今 イハ発語声、マハ現在ノ音声ニテ明ラ

【校勘】○イ「伊」を見せ消ちして直す。

6 b

カニ眼ニ見ル義也。今モ時ナレバ時ニカタチナシ。サレバ、イトマトヲツツケ合セテ今時ライマト云也。

イデイル 出入 イハ発声也。テハイヅル声、陽也。ル

ハイル声、陰ナリ。

イクル 生 息アル也。息ナケレバ死ナリ。

イタダキ 巔 用語ヲ借用ス。

イユル 愈 イクル也。病愈レバイクル也。

イラカ 薨 家ノ皮也。

イサゴ 砂 イサギヨキ也。ゴハ裳語、ヒヂリコ*ノコト同ジ。

イビキ イキノヒビキ也。

【注】○ヒヂリコ 泥。

7 a

イノチ イキノウチ也。臨終ニ一息不絶則不*為死。

イザシラズ イザハ不知ノ音声也。イザト云テモシラヌ義ニ用。不知トカキテイザトヨムト云ドモ、イザシラヌ

トツヅクルハ、重複ニアラズ。有明ト云テ月ニ有明ノ月
重複ニアラズ。

イザ 誘 イザナフ也。

イ猪 イカル獣也。

イヤ 札 ウヤマヒ也。イ、ウ、相通ズ。

イカヅチ 雷 怒ナリ。チハ裳語ナリ。

イヅミ 泉 出ル水ナリ。

イササカ 聊 イハ発語、ササハ細小也。カハ裳語ナリ。

【校勘】○不 後からの挿入。

7 b

イシ 石 音語ナリ。

イハンヤ 況 イフベケンヤ也。又マシテノ義。

イチ 市 イハ集ナリ。チハ路ナリ。人ノ集ル路也。

イモセ 女男 イモハ女ナリ。セハ男ナリ。皆音語ナリ。

イツクシミ 愛又仁 貴キヲ愛スルヲイツクシミト云。

下ヲ愛スルヲアハレムト云。皆音語ナリ。

イマシム 戒 人ヲシテイミオソレシムナリ。

イノル 析 イハ発語、ノルハ告ナリ。

イバリ 尿 イハ発語、バリハ漏下也。マリ也。マルハ

用語也。ユバリ同通レイニ。

8 a

イサムル・イサメ（*以上二語並列） 諫 イサハイサ

ナフ也。ムルハ用語。メハ定語。

イサル 漁 人ノ魚ヲ求ル也。アサルハ鳥獸ノ食ヲ求ム
ル也。

イタダク 戴 イタダキニ上ル也。

イヲ 魚 音語ナリ。

イサミ 勇 イハ発語。サミハススミ也。

イガシ 辛 イハ発語。カシハカラシ也。

イササメ 少間 イササカノ間也。

イツハリ 詐又偽 ウツホリ也。ウツホハ虚也、不実也。

リハ裳語。

イキホヒ 德勢 德、勢二字ノ訓也。本意ハ勢也。德ニ

イフハ仮訓也。天子善政ノサカンナルヲミイキヲヒト

云。人ノ善心ノサカンナルモ亦イキ

8 b

ヲヒト云。

イネ 稻 音語。

イモヲト 妹 ヲトハ弟也。

イヒ 飯 音語。

イ* 兄弟ノ子也。男ヲライト云。女ヲメイト云。

イカダ 桴 イカハウカブ也。ダハ板也。

イマダ 未 イハ発語。マダハ待期ノ義也。

イクバク 幾何 イカバカリ也。

イトコ 従兄弟 兄弟ノ子ヲイト云。ヲイメイノ如シ。
故ニ兄弟ノ子タガヒニイトコト云。イトイトト云義也。
コハ伯叔父母ニ対シテ子弟ノ義ヲ以テ云也。

【校勘】○イ この項(行)の上下に圈点(○)を見せ
消ちする。

9 a

イ 猪 イカル獸ナリ。

キ 井 コトバノ母也。水ノ類ニキノ字ヲ首ニ用ル例多
シ。キケ、キセキナドノ如シ。

9 b

(なし)

10 a

波部

ハヒ 灰 ハツル火也。火ノ終リ也。

ハク 吐 ヒラク義。

ハタケ 畠 田ニヨリテ云詞也。田ハ正田也、畠ハ非正

田也。ハハカタハラノ義也。物ニ正副有。副ハカタハラ

ニソイテ正ニアラズ。ケハスソノコトバナレバ義理ナシ。

亦曰、ハハ葉ナリ。本田ハ本タリ。ハタハ木ノ葉ノゴトシ。

末ナリ。ハタケヲハタトモ云也。

ハタチ 二十 ハタハフタツ也。チ八十年也。ミソジ、

ヨソジトヲナジ。

橋ヲ ハシト云、コトバノ母也。梯、階、皆ハシト云。
借用ノ詞也。イツレガ本語ナルコトヲシラス。

10 b

ハツカ 二十日 二十八ハタ也。ハツ、ハタ、相通也。
カハ日也。ハタカ也。

ハナ 鼻 ハハ二ツ也。ナハ穴也。二穴アル義也。紀氏
ノ説ニ音語ナリ。

ハンベル 侍 カタハラニフル也。歴^レ傍^ニ。

ハタバリ 幅 機^{ハタ}ノハリ也。帛布ノ横ヲ云。

ハヤス ハヤムル也。生ズル義アリ。

ハカマ 袴 ハキマトフ也。

ハユル 草ノハユルハ生也。

ハラヘ 祓 掃除ナリ。

ハシラ 柱 ハシハ端也。始也。ラハ裳語也。家ヲ造ル
ニハ柱ヲハジメト云ハ、家ノ柱ヲ借用ス。柱ハ正シク立
故也。

【校勘】○この葉末行に、次葉の「ハル 春 音語ナリ」
を見せ消ちする。

11 a

ハラ 原 広大ノ義也。

ハ 齒 紀氏之説ニ音語也。

ハム* 喰 音語ナリ。ハハ口ヲ開、ムハ口ヲ合。飲食

ノ口。

ハラ 腹 紀氏之説、音語ナリ。

ハ 葉 音語也。

ハナ 花 音語ナリ。

ハラム 孕 ハラム腹ナリ。ムハ裳語ナリ。

ハル 春 音語ナリ。

ハチス 蓮 其房蜂ノ巢ニ似タリ。

八月 八月 ハハハクノ省語。コノ月暑氣全ク退キ人身

モ残暑

【校勘】○ハム 左横に「容ヲ云」とある。

11 b

ノ氣ヲハキ*出ス也。吐月ナリ。

ハリ 針 ハイル^{ヲ入}ナリ。

ハチ 蜂 音語ナリ。イカル義也。

【校勘】○ハキ 後に「吐」を見せ消ちする。

12 a

仁部

ニハタミヅ 潦 雨水ニハカニタマルヲ云。

ニコゲ 龜 柔毛也。ニコハニギ也。

ニシ 西 上世ノ神人西ニ向ッテニシトヨブ。ニハ陰声

ノ発也。シハ裳語ナリ。紀氏之説*、ヒガシノ下ニ出。

ニカハ 膠 獸ノ皮ヲニル也。

ニシキ 錦 ニシハ西也。キハ絹也。錦ハ西蜀ヨリ出ル
ヲヨシトス。故ニ西絹ト云。

【注】○紀氏之説 『日本釈名』では「地理」部に東西南
北がまとまって出る（北以外は内容が一致する）。清原
宣賢講『日本書紀抄』上10 aも同じ「西ハ、イニシト云
義也。日沈テ去ルホドニ：」。

12 b

(なし)

13 a

保部

ホ 穂 穂ノ形似火之炎上。ホハ火也。

ホトケ 仏 仏ト云ハ浮屠教ヲ和語ニ転ス。

ホムル 讚 ホムルト云ハ、ホハアグル義也。ホメトイ

イ、ホムト云シテ*、ムハスソノ転声也。

ホ* 欲 ホリ、ホシ、ホハ 思フ義。語母也。

ホタル 螢 ホハ火ナリ。

ホシ 星 音語ナリ。

ホノホ 焰 火ノ穂ナリ。

ホコル 矜 ホコハ榮昌ノ意。ルハ用語ナリ。

【校勘】○シテ 合字の「^メ」に見えるが未詳。○ホ

後に「ツス」を見せ消ちする。

13 b

ホウヅキ 酸漿草 ホウハホ也、火也。ツキハ月ナリ、

赤キ月ノ如シ。

14 a

へ部

ヘリ下ル 謙也。人ノ我ヲホメテ上ルヲ、我ハカヘリテ下ル也。人ホメザルニモ用ユ。又我ニカヘリ下ル也。

ヘビ 蝮蛇 反鼻ノ音ヲ和訓ニ用ルナリ。ハミモ同ジ。

貝原ノ説也。

14 b

(なし)

15 a

止部

トナリ 隣 トナハ伴也。リハスソノ言葉也。家ヲナラベテトモナウ義也。

トツグ 嫁 トハ外也。女子ノ嫁スルハ外へ出テ人ノ家ヲ

継故也。一説ニトハ戸也。家ノ義也。子ヲ生テ夫ノ家ヲ継也。男女交接ヲトツグト云ハ此義ヲ類用スル也。和語

ニ類用多シ。

トコ 常 トキト云ハ通音也。詞ノ母也。トコシナへ、シナへハ、スソノ詞ニテ、定ル詞ニナス也。

トリキ 神社ノ惣門也。上ニ鳥居ル故ニ鳥居門ト云。門

ヲ省テ云ナラハセリ。

トドロ 轟 ウゴク也。

15 b

トネリ 舎人 トハ戸也。ネハ寝也。戸内ニ寝宿シテ奉仕スル義也。リハ人ニツクル詞也。ヒトリ、フタリ也。

又トハ止ル也。禁中ニ止宿スル也。

トモガラ 伴 同類ヲトモガラト云。

ト戸 音語也。トビラ、トザス戸ヨリ出タル詞ナリ。

トノキ 宿直 御殿ニナル也。

トキハ 常盤 トキハ常ナリ。トキイハノ省語ナリ。ト

キハヲ常葉トモカク。松柏ノ類常ニ葉アリ。

トリ 鳥 トハ飛ナリ。リハ蒙語。又云音語。

トム 富 音語也。多キ義也。

トドコホル 滞 止ル義也。

16 a

トヅ 閉 語ノ母也。陰声ナリ。

トキ 時 音語也。

トクサ 木賊 トグ艸也。

トガ 咎 音語ナリ。トガムルハ用語ナリ。

トビラ 扉 トハ戸也。ヒラハヒラク也。戸ニハヒク

トヒラクトアリ。トビラハヒラキ戸ナリ。

トビ 鳶 ヨクトビノボル鳥ナリ。

トラ 虎 トラユル也。不ニ捕繫「バ人ヲ害スハナシ。
養ニスルコト不能。

16 b

(なし)

17 a

知部

チ 風 コトバノ母也。東風ヲコチト云ヒ、迅ヲハヤチ
ト云ヒ。

チ 路 チトイヘルハ詞ノ母也。

チ マタ 岐 チハ道也。マタハ股也。道ノワカルル也。

チ 木 鯉木 チハ風也。風ヲ鎮ズル為ニ設クト。古来ヨ

リノ説ニ風木トカク。カツヲキハカタヲホフ也。堅蔽木
トカクト古来ヨリノ説也。カタメオホフ木ト云義也。

チ リ 塵 音語ナリ。チルナリ。

チ ゴ 児 乳子ナリ。

17 b

(なし)

18 a

利部

(なし)

18 b

(なし)

19 a

奴部

ヌ ウ* 縫 ヌハツラヌル也。フハスソノ語也。ヌフ、

ヌヒ、ヌヘル、ヌクト云義ナラバ、貫ノ字ノ義也。フ、ヒ、
へ、通音ナリ。

ヌ ナワ 蓐 ナメラカナル繩ナリ。形容シテ名ヅク。

【校勘】 ○ウ 横に「フ」とある。

19 b

(なし)

20 a

留部

(なし)

21 b

(なし)

22 a

遠部

ヲ ドス 威 使人恐怖之也。ヲド、ヲヂ、通ズ。恐也。

ヲ ゼ シムル也。

ヲ シヘ 教 ヲシハ推也。ヘハスソノ語也。我所知ヲ人

ニ推移スル也。

ヲ シネ 晩稲 ヲソキイネ也。

ヲ モト人 侍従 ヲハ発声。モトハ貴人ノモト也。

ヲノレ 己 我也。ヲレトモ云、ヲノモト云、皆音語ナリ。

ヲチカタ 遠方 ヲチハトヲキ也。

ヲモテ 表 面ヲ借ル。裏ハ後ノ転声也。

ヲフトメ 夫妻 ヲトメト云ハアヤマリ也。メヲトト云ハ妻夫也。

22 b

ヲチ 遠路 ヲハトヲキ也。遠ノ音ヲ用ユルニアラズ。

チハ路ナリ。

ヲキ 火木

ヲホヤケ 公 御ヤラカ也。

ヲクテ 晩稻 ヲクハ後ルル也。テハ穀ニ名ヅクル詞。

ヲノヅカラ 自 ヲノハ己也。カラハ従来ノ義ナリ。ヲ

ノレッツカラ也。ツハ空字也。類也。ヲノレカラハ、人ニ

テモ、物ニテモ、自然ナル義ヲ云。ヲノレナリニナルコ

トヲ云。

ヲト 乙 音語也。第一ノ事物アリテ第二ニ出ルヲヲト

ト云。兄弟ノ弟モ此義ヲカレリ。

ヲバシマ 欄干 ヲビシモ也。ヲバハ帯、シマハ下也。

欄干ノ高サ人ノ帯ノ

23 a

下ニアタル。

ヲソ 鰯 魚ヲヲソヒ取ル獸也。海ニアルヲ海ヲソ、河ニアルヲ川ヲソト云。

ヲニ 鬼 音語也。陰ノ字ヲ転ズルト云ハ僻説也。ヲニ

ト云テヲソルベキノ義ナリ。

ヲロカ 愚 ヲロソカ也。

ヲシマヅキ 几 ヲシマハヲハシマス也。ツキハツクヘ

也。榻ノ比ナリ。尊者ノヨリ玉フ器ナリ。

ヲドロ 棘 ヲソロシキ也。刺アリテヲソルベシ。

ヲイ 姪 兄弟ノ子ヲ姪ト云。姪ノ字ノ和語ハイナリ。

タガヒ

23 b

ニイフ詞也。イトイトト云義也。

ヲキ* 澳 奥ナリ。

ヲホカメ 狼 大口ナリ。

ヲチ 伯父 ヲハ乙ナリ。ツグノ義也。チハ父也。我父

ニツグ也。

ヲサムル 治 長ノ詞ヨリ出。

オトロフ 衰 オトハ乙ノ義ニテ陰也。陽ハ盛ナリ。陰

ハ衰也。ロフハスソノ語也。又、オトハ落ル義也。

オブル 佩 帶ヨリ出ル詞。ヲビモノト云義也。

オサ コレヲ以テ一幅ノイトヲオサメヤク也。

オサ 長 語ノ母也。一云、雄人ナリ。

【校勘】○キ「ヤ」を見せ消ちして直す。

24 a

オオヤケ 公 天子ノ称也。御宅トカク、オホンヤケ也。

私ナキコトヲ公ト云。公私相對スル故也。公私ヲ善惡ニ

ワクルハ義ヲ転借スルコトバ也。

オビ 帶 コトバノ母也。

オヤ 親 音語ナリ。

オホチ 祖 オホハ大也。チハ老人也。

オン 御 大ノ義ナリ。ミトモ訓ズ。

オモネル 諛又阿 面似也。心ハ同ジカラデ面バカリ人

ニ同キ也。按ニ面練ナリ*。

【校勘】○按ニ面練ナリ この横に双鉤あり。その下に

朱筆で「六字、別手ニ出ヅ。書法墨色大ニ同ジカラズ」

とある。『和訓栞』などに見える説のようなので、ある

いは後世の人が追記したか。

24 b

(なし)

25 a

和部

ワカレ 別 分ノ字ノ義也。ワカノ二字、通音ニシテ別也。

一ワカレテニツトナル。音声ノ義也。レハ裳語ナリ。

ワキ 脇 紀氏之説、音語。

ワセダ 早稲 ワハ早キ義。セハ穀ニ名ヅクルコトバ也。

ワザハヒ 禍 ワザハ凶也。ハヒハ裳語。

ワシ 鷺 コハシ也。コハシハツヨキ也。此鳥、鳥ノ中

ノ強キ者也。コヲ略言ス。

ワラハベ 童 音語也。ワラハ也。不冠之名、ベハ人ニ

名ヅクル裳語ナリ。

25 b

ワレ 我 音語ナリ。

26 a

加部

カナシム 哀又悲 タノシムノ反也。タノシムハ陽声也。

カナシムハ陰声也。陰陽相反ノ義也。皆音語也。

カバカリ 如此計 此ノ字ヲカト訓ズ。カク、此也。

カクレ 尻 汚穢ナル故ニ本語ヲ変ズル也。尻ハカクレ

テ見エヌ所也。

カラス 鴉 カラハ其声ナリ。スハ裳語ナリ。

カゼ 一名チ 風 皆音語ナリ。運転ノ意アリ。カゼハ

散ズルヲ以テ名ヅケ、チハ体ヲ以テ名ヅク。

カモ瓜 冬瓜 カモハ鳧ナリ。コノ瓜、冬マデモタクハ

ウベシ。鳧ノ類

26 b

冬アルモノナレバカモノ瓜ト云トナリ。

カタシロ 尸 形ノ代也。代ハカハリ也。神ノ代リニ人ヲ立ル也。

カヘデ 楓 其葉カヘルノ手ノゴトシ。

カキツバタ コキツバナ也。ツハヤスメ也。色ノコキ花也。

カヒ 匙 上古ニハ貝ニテ食物ヲクフ。後世ニ至テ木金竹銀ニテ作レドモ本名不捨ノ語也。

カタムク 傾 カタカタニムク也。ムクハ向也。又曰、裳語也。

ガテラ 花見ガテラニ来ル人トヨメリ。花見ルウエニ加ルト云義也。

カチハ カツル也。カツルハ加フル也。

27 a

カリ 雁 借ナリ。雁ハ常居ナク陽ニツヒテ往来ス。

カシラ 首 ハジメ也。カトハト通音。ラハ裳語也。

カフベ 頭 カミベ也。シリヘニ対ス。尾ヲシリヘト云。

尾ハ終也。尾首 オカシラハ終始ノ義ナリ。

カゾフル 数 カズヲフル也。一、二、三ト経歴スル也。

カミアガリ 崩 天子ノ死ヲ云。

カミサリ 薨 太子大臣ナドノ死ヲ云。

カ 陽発ノ声ニテアニ類セリ。アハ広博ノ義有。カハ堅固ノ義アリ。

カミ 上 上ヲカミト云、下ヲシモト云ヘルハ、語ノ母ニシテ深

27 b

奥ノ義アリト云伝ヘタリ。カハ𪛗*、シハ𪛗*。ミ、モ、通音。

カミ 神 コトバノ母ニアラズ。上ヲカミトイヘルハ詞ノ母也。神ヲカミト云ハ、上ノ義ヲカリモチヒテ、声ヲ

転ジ尊者ノ号トナ*ルナリ。上ノ義、尊也。
(書眉朱筆) ナ下ノ脱字、又蠹食ニアラズ。

カタチ 形 コトバノ母也。チハスソノ詞也。カタトモ云。

カタマル 凡物カタチヲナセバカタマル也。水火ハ定形ヲナサヌ故ニヤワラカ也。金木ハ形ヲナス故ニカタシ。

カタチト云コトバヨリコトバノ字ニナセル也。マルト云コトバハ、シヅナル・アラタマル・ユルマル(*以上三語並記) ナド云類也。スソノコトバ也。

カハラ 瓦 瓦トハスソノコトバニテ*、物ニ定ムル詞也。カハハカハ

也。カハハカハ

【校勘】〇ニテ「也」を見せ消ちして直す。

【注】〇𪛗 陽。〇𪛗 陰。

28 a

ク義ニ云ヘリ。土ヲヤキテカタクセルモノヲスベテ瓦ト

云。

カタナ 刀 カタハ也。ナハハノ転声也。

カミナツキ 十月 上ナキ月也。十八数ノ極上*ナレバ十ノ上ニ数ナキ故ニ云也。十二キワナリテ一二下ル也。十一月ヲ下月ト云ハ十月ヨリ一二下ル故ニシモノ月ト云也。正月ハ数ノ始ナル故ニシモ月トハ云ザル也。十ノ後ノ一ヲシモト云也。最初ノ一ヲ下ト云ベカラズ。始ニハ上下ノ義ナキ故也。

カ 蚊 カム也。人ヲカム虫ナリ。

カハヤ 厠 カハハ外也。厠ハ家ノ外ニ置屋ナル故ニ家ニアラズ。家外ノ屋也。屋ト名付ルハ雨ヲフセグオホヒ有故也。カフヤト

【注】○十八数ノ極上『蘭洲茗話』下一九オ(四九条)(*契沖説に反対した上で)「予が家の説には、数は十にて終る。この上(阪大写本…かみ)なしといふ心也。調子(阪大写本…てうし)の上無(阪大写本…かみむ)の如し。」一方、下一四オの「くはだつる(足をつまだつる)」「むさばる(むさく欲する)」については『和語集解』にはない。蘭洲が考えた説か。あるいは、『和句解』の「むさとほしがる」を参考にしたか。

29 b

云ハ転声也。

カラ 韓 カラトヨム。神代ニアリ。三韓ナリ。上代ニハ高廉*ヲカラノ国ト云。本土異域ニ通ズルハ朝鮮最初也。其後、異域ヲ皆ヲシナベテ、カラト云。モロコシ*異域ナル故ニカラト云。朝鮮ノ称ヲ借用スルナリ。(書眉朱筆) 恐麗。

カミ 紙 カハカフゾ也。モ*ハスソノ語ニテ物ニ名付ル字也。ミトト云テ楮ニ別ス。又、ミハ身也。(書眉朱筆) モ、恐ミ。

カウガイ 搔頭 髪カキ也。カウハカミハ転也。ガイハカキ也。イ、キ、相通ズ。髪中ノカユキ所ヲ此物ヲ以テカク故ニ云ト云ヘリ。

カツラ 鬘 カハ髪也。ツハツヅク也。ラハスソノ詞ニテ物ニ名付ル

【校勘】○廉 原文では「廉」か「麗」かはつきりしない。書眉朱筆が正しいはず。○シ 「レ」に見えるが改めた。30 a

コトバ也。

カウベカシラ 頭首 カウハカミ也。カシハ甫ノ語ノ心ナリ。ベハ物ニ名ヅクル裳語。紀氏ノ説ニ音語ナリ。

カタヂケナシ 辱 カタハカタチ也。シケナシハシクナシ也。カタチシクナキ*ト云コトバ也。物体ナシト云コトバ也。貴人ノ貴キヲ忘レ枉テ下ニクダリ玉フハ、ハツ

カシメヲトリ玉ヒテ物体ナキ也。カタチノ悪キヲ云。御恩過当ナルヲ深ク謝スル詞ナリ。一曰、カタハ^{*}方也。

カヒコ 卵 カヒハ皮殻也。カラニツヅメルコ也。

カタ 肩 頭ヲ中トス。肩ハ左偏右偏ナル故ニ、カタツ

カタト云義也。紀氏之説ニ音語ナリ。

【校勘】○キ 「シ」を訂正する。○ハ 「ク」を訂正する。

30 b

カガミ 鏡 カガハ形也。ミハ見也。

カモ 釀 カハカフヂ也。モハマジユル也。酒ヲツクル

コト也。

カハ 川 音語ナリ。

カネ 金 音語ナリ。

カナヘ 鼎 金煮也。カマハ省語也。

カサ 高サ也。物ヲカサヌレバ高クナル也。

カケハシ 棧 上ニカクル橋也。

カド 門 外戸ナリ。内ニ対スル義也。

カゾイロハ 父母 音語ナリ。

カミ 髪 神ハ人ノ上ナリ。髪モ人ノ上ニアレバ譬テ用

ユ。

31 a

カタビラ 単衣 カタカタ服スル也。衣ハ表裏アリ。カ

タビラハ唯カタカタ也。

カザシ 挿頭 カミニサス也。

カンザシ 筭 カミサシ也。

カラ 群ノ心ナリ。同輩ヲ友ガラト云。兄弟ヲ腹カラト

云。一門ヲ家カラト云。

【校勘】貼り紙で「カラ」の条を双鉤で書き、以下の書

き入れあり。「カザシ以下、書法大ニ変ズ。蓋シ別手ニ

出ヅ。疑クハ蘭洲加フル所。ヨッテ右一条ヲ双鉤ニトリ

テ其真ヲ存ス。」

31 b

(なし)

32 a

与部

ヨル 夜 ヨハ詞ノ母也。ルハスソノ詞也。昼^{ヒル}、ヒハ詞ノ

母也。ルハ裳語也。

ヨ 代人世 語ノ母也。

ヨミ 黄泉 ヨハ夜なり。ミハ見ナリ。昼見ルハ明カ也、

陽也。夜見ルハ幽カ也、陰也。故ニ黄泉ヲヨミト云。冥

途ト云類也。ヨミ、ヨモ、同音ナル故ニ冥途・黄泉（*

以上二語並記）ノ類ニヨモトヨミヲカシラノ字ニ用ル例

多シ。黄泉路ヲヨミヂトモ云。ヤ、イ、ユ、同音也。

ヨミガヘル 蘇生 ヨミヂヨリ販ル也。

ヨメ 婦 我世ヲ継女也。世女ト書ク。舅姑ヨリ云語也。

32 b

夫ヨリ云ヘバメト云。一曰、ヨビ迎ル女也。

ヨム 歌ヲヨムト云ハ詠歌ヲウタヨミスト云歌ノ一字ヲ
ウタヨミトヨメリ。『日本記』

ヨロヒ 鎧 ヨロフ也。圍繞ノ義也。囲護人身也。

ヨシ 義又宜 音語也。

33 a

タ部

タミ 民 田人也。漢書ニハ民ヲ人トモ云。本土ニテハ
農ニカギル也。工商モ農ニ属シテタミト云也。又音語也。
タテ 楯 立ル物也。タテモノト云ヒシヲ、モノヲ省キ
タル也。

タタミ タタム也。石ダタミ、石ノタタミ也。瓦ニテ

モ同ジ。

タヲヤカ 婀娜 タヲハタハム也。ウツクシクヤワラカ
ナルガタハムゴトヲ*ナルト云義也。ヤカハ形象ノ裳語
也。

タツ 立 音語也。有数義。一、坐立之立。一、発起之

義。一、始基之義。一、不発之義。

タネ 種 核 サネ、通音。

【校勘】○ヲ「ク」の誤りか。

33 b

タグヒ 類 タクハ次第也。継之義モ有。ヒハ裳語ニテ
定ルコトバトナス也。

タノシム 楽 手ヲノブルト云義也。天照太神、岩戸ヲ
出玉フトキ、神楽ノ人悦テ舞ノ手ヲノス故ニ此語始レリ
ト也。

タナビク 黻 タナハタカキ也。雲ハタカクヒク也。

タ 田 音語ナリ。

タハラ 俵 タハ田也。ハラハ腹也。田ヨリ出ル物ヲ入
ルニヨリテ人ノ腹ヲカル也。田ノハラ也。

タキ 滝 水ノタギリナガルル也。瀑布ヲモタキト云。

川流ノ急ナルヲモ云フ。

34 a

タマ 玉 音語也。タマハ魂也。金石中、玉ヲ以テ魂

トス。

ダケ 嶽 タカキ也。又、イタダキノ省語也。

タナゴコロ・タナウラ(*以上二語並記) 手心 手裏也。

タテマツル 奉 タウトミマツロフ也。

タケ 竹 タケタカキ也。又云、音語ナリ。

タチ 大刀 タチキル也。

タカキ 高 陽声ナリ。

タカラ 貨 高貴也。

タイマツ 松明 松ヲタク也。

タラヒ 盥 手アラヒ也。

34 b

タカ 鷹 タケシ也。鳥ノ猛キ者也。

タチマチ 忽 タツテマツベキ也。早速ノ義。

タイ 鯛 タイラ也。ヒラメトモ云。

タガヒ 互 アヒナリ。

35 a

ソ部

ソコ 底 語ノ母也。塞ハ底ヲ借用ス。器ニ底ナケレバ漏脱スル故ニ塞ハ不漏脱ノ義也。

ソモソモ 抑 音語也。発端ノコトバ也。又、反語ノコトバ也。語ノ中ゴロニ発端ノ語ヲ云ハ、前後ヲ改ル故ニ

反語ニナル也。又云サテモサテモノ約言也。又、音語也。

ソデ 袖 ソハ衣也。テハ手也。コロモ手ト云モ袖ノコト也。袖ハ手ノ服ナリ。

ソノ 園 ノハ野也。ソバニアル野也。

ソラ 虚空 ソラハ無形無声廓然無碍ノ意ナリ。音語ナリ。

35 b

ソラゴト 虚言 虚空ヲ借用ス。実ナケレバ也。

ソムク 背 背ニ向フ也。不順不合ノ義也。

ソル 剃 ソルハ反也。髪ハ生出ズルニ、キリサルハ、常ニ反スル故ナリ。

ソル 反 ソムク也。

36 a

ツ部

ツ 水 語ノ母也。水ノ類ニツノ字ヲカシラニラクハ此義也。

ツイタチ 朔 月ノ初日ナレバ月タチノ日ト云義也。ツ

キ、ツイ、同音ナリ。タツハハジムル義也。立春、立秋ノ立ノ義也。

ツゴモリ 晦 月コモルト云義也。コモルハ隠レ入義也。

此日ニオヒテ月日トモニ地下ニ入テカクル故也。古書

ニツイコモリノ日トカキタルモアリ。

ツヂ 衢 ツハアツマル義也。チハミチ也。八方へ通ズ

ル道ナル故ニ一道ニアラザル義ヲモテ名付シ也。

ツグナフ 償 ツクハツヅル義也。ナフハ詞ノ裳也。無

ノ字ニアラズ。

36 b

物ヲ補綴スル義也。

ツク 杖 枝也。木ノ枝ヲ杖ニスル故*也。

ツクロフ 療 病ヲナス也。借*用シテ悪ヲ善ニスル

事ニ用ユ。キヅヲツククロフ也。

ツイデ * ツイハ次也、第也、ツグ也。デハ裳語ニシテ義アリ。出也。ヅキ出ルナリ。

ツイニ 終 尽ルト云義ナリ。

ツカヌル 塚 ツカヌルハアツムル也。土ヲアツメテ高クナス故也。又死骸ヲ放失散乱セシメザル故ニツカネ取ル義アルカ。オキツキノ省語歟。ツキ、ツカ、通*音。

【校勘】○故 後からの挿入。○借 「備」の横に訂正する。○ツイデ 後に「弟」らしき字を見せ消ちする。○通 「同」の横に訂正する。

37 a

ツルギ 劍 ツルハツク也。ギハ器ニ定ル裳語也。

ツキエ 机 ツキハ、タカツキ、サカツキナドノツキ也。飲食ヲモル物ヲツキト云。机ハ飲食ヲ載ル器ナル故ニ、

エノ字ヲソヘテ其名ニナセル也。ツクヘトモ云。通音也。食物ヲツキエモノト云。文机ヲフミツクエト云。略シテ

ツクエト云。又フツクエト云。ツキハ土器ト同音ト云ハ惑説ナリ。

ツバサ 翼 ニツ羽也。サハ裳語。

ツボネ 局 家内区別スルヲツボト云也。ネハ語ノスソ也。ツボネマチトツラヌル語アリ。家宅ノ広狭ヲハカルニイクツボ*ト云也。

ツト 他所ノ土産ヲ持テカヘルヲツトト云。ツタフル

義、ツツ

【注】○ツボ 蘭洲が「坪」について述べている（阪大写本『茗話』中卷二七条）。

37 b

ム義、両義ヲ用。伝来ノ義、包裹*ノ義也。後世ハツツマス物ヲモツトト云ヒ、其地ノ産ニアラザルモノヲモツトト云ハ本名不捨也。

ツナ 綱 ツケナハ也。ナハヲ物ニツクルヲ云。アミノ目ノツクナハ也。

ツヅク 続 ツヅクハツグツグ也。

ツカ 柄 ツカミ也。手ニテツカム。

ツバクロメ 燕 ツバサクロキ也。

ツチ 土 地ノ和語ヲカリ用ユ。

ツツミ 陂 水ヲツツムナリ。

ツ津 音語ナリ。ツハ会聚連続ノ義ナリ。

ツマ 妻 夫ニツクメ也。

【校勘】○裏 「裏」に見えるが改めた。

38 a

ツツ 相続テ不止也。又ナガラノ義アリ。

ツハモノ 兵 強モノ也。人モ器モツヨキヲツハモノト

云。

ツメ 爪 強キ芽ナリ。ツメルハ人ヲツメスル也。

ツカル 疲 尽ルト通音ナリ。

ツル 蔓 ツハツヅク也。ルハ裳語也。弓ノ弦、琴ノ絃

ハ是ヲ借用ス。

ツヅマヤカ 約 ツヅマハシジマル也。ヤカハ象形ノ裳

語ナリ。

ツバナ 茅 チバナ也。

ツミ 罪 音語ナリ。ツミナフハ用語ナリ。

ツチ 槌 ツハウツ也。チハ裳語也。

ツヅミ 鼓 ツツム也。皮ヲ以テ両方ヲツツム也。

38 b

(なし)

39 a

子部

ネヤ 閨 『万』*ニ寝屋トカク。

ネシ コトバノスヘ也。ネキモ同義也。

ネル 鍊 煮ルヲ転ジテ用ル語ナリ。

ネズミ 鼠 不寝ナリ。ミハ裳語ナリ。

ネコ 猫 ネハ寝ナリ。昼寝好シデ寝也。コハ裳語也。

鼠ト反对也。

ネ 根 音語。

【注】○『万』『万葉集』卷五892「貧窮問答歌」に「寝屋処(ねやど)」という語が見える。

39 b

(なし)

40 a

ナ部

ナネ 姉 アネ、ナネ、通音。

ナ 魚 古書ニアリ。真魚板。

ナミ 波 ナハウゴク義也。ミハ水也。

ナギサ 渚 波ギワ也。サハ裳語ナリ。

ナオル 死 タフルル也。ナオル*、タフル、ナ、タ、通ズ。

ナガムル 詠 両義アリ。詠歌ト眺望ト也。詠ハ言ヲ永

引スル也。眺ハ目ヲ遠長スル也。

ナハ 繩 ナガキ也。ハハスソノ語也。ナハヲナフト云

ナフハナガクスルナリ。ナフニヨリテ即名トス。

【校勘】○オ「フ」を見せ消ちして直す。

40 b

ナミダ 涙 ナハナク也。ミダハ水垂也。

ナル 成又生 両義アリ。艸木ノ実ヲミノルト云ハ、ミ

ナルナリ。実生也。子生トモカク。

ナラフ 習又*学 両義ナリ。『日本記』ニ、ナラフ、用^ユニ

ナヲ 猶 両義アリ。一、イヨイヨノ義。一、マダ也。

イマダノ義也。

ナガレ 流 ナガハ長也。レハ水也。流水ハ長遠ナル故ニ云。

ナゴリ 餘情 ノコルノ転声也。ナノ字、ノノ字ト通音。

ナツク 懐 親附ナリ。

ナノル 名告也。

ナ菜 音語也。

【校勘】○又 後からの挿入。

41 a

ナシ 無 陰声也。

ナツ 夏 音語也。

ナガ月 九月 コノ月、夜ナガシ。

ナガラ ツツノ義。又ママノ義。又ソレトモニト云義。

ナ ナカレノ略語。又、カナノ略語。又、句ノ終ノ語。

ナリ 定ムル語。

ナル 成又在 ニアリヲ約シテナリ*トス。なにはなか

みづの浦。 (書眉朱筆) 恐ル。

41 b

(なし)

42 a

ム部

ム フト通ズ。スソノ語也。又未来ノコトバ也。見ン、

キカン、チトセヘンナドノ類也。ウタガフ語ニナスモ、未来ノ類、未来ノコトハサダメガタキ故也。

ムコ 婿 舅婿両辺ヨリ名付ル也。ムコハ舅ノ辺ヨリム

ツム子也。シウトハ婿ノ辺ヨリシタシム人也。更互シテ

名付也。

ムチ 鞭 ムチハウチ也。ウチモノト云シヲ、モノヲ省

ク也。

ムラ 村 家々群ヲナス也。

ムスメ 女 ムスハ生ズル也。

ムネ 胸 紀氏ノ説、音語也。

42 b

ムツキ 正月 ムハ睦愛ノ義也。コノ月ハ親疎貴賤相会

シテムツミシタシム故二年ノ始ノ月ノ名トス。

ムカデ 蜈蚣 腹ノ左右ヘイツムカヒ出ル也。百足ノ類

也。

43 a

ウ部

ウツ 珍 神代ニ此字ヲ用ユ。

ウツクシ 美 ウツハ珍也。クシハ裳語也。

ウラ 浦 海ヨリ出ル詞也。ウハ海也。ラハ語ノスソニテ、

又ウツホ字也。スソノ語ヲソヘテ海ニ別セリ。

ウテナ 台 ウテハ上也。ナハスソノ字ニテ物ニ名付ル

語也。

ウツル 移又遷 又スツルヲウツルト云。棄字ヲウツルトヨム。

ウネメ 采女 上ニツカフマツル女ナル故ニ上女ト云也。ウヘ、ウネ、通ズ。

ウヤウヤシ・ウヤマヒ（*以上二語並記） 敬恭 ウヤ

マヒハ正名也。ウヤウヤシハカタドルコトバ也。ウヤマフ、ウヤマヒ、マフ、マヒ、スソノ語也。マヒハ定ムルコトバ也。ウヤウヤシ、シハシクシ

43 b

キトヲナジ。

ウラヤム 羨 心止也。我心ヲヤメテ人ニ似ンコトヲ欲ス。ウラハ心也。

ウヰウヰシク 初敷トカク。

ウマシ 甘旨 口味ニ不限、一切ノ善ナルヲ云。

ウツツ 現在 神代ニ顕見ヲウツツシキトヨム。夢ニ対シテ云ヘバ不眠ヲウツツト云。

ウラ 上又*裏又*中 上声、去声ノ異也。

ウサギ 兔 ウスゲ也。

ウナギ 鰻 其形似_レ棟。ム、ウ、相通ズ。

ウバ 祖母 ウハ尊也。バハ老女也。

【校勘】○又（二箇所） 後からの挿入。

44 a

ウルシネ 梗 ウルシハ美也。ネハ穀ニ名ヅクル詞。

ウツハモノ 器 現在ノ物也。

ウルハシ 美 ウクハシ也。ウツクシキ也。

ウミ 海 音語ナリ。陰声合コエ也。

ウメ 梅 ウハ初也。メハ見也。此花、としのハジメ初テ見ル也。

ウヅキ 四月 ウハ木ノ名。此月ウノ花開ク故ニ名ヅク。

ウラカタ 兆 占ノカタチ也。

ウグヒス 鶯 ウハ初也。梅ノウト同じ。クヒハ来ル也、キ也。コノ鳥、春初テ来ルナリ。スハ鳥ニツクル裳語ナリ。

ウツボ 鞆 ウツハ空ナリ。中空ナリ。ボハ穂也。形大ナル穂ノ如シ。

44 b

ウシホ 潮 ウハ海ナリ。シホハシハユキ也。

45 a

ノ部

ノ 長久ノ音声也。下ニツヅクル辞也。ノチト云ハ下ノ義也。先ハ上、後ハ下也。スベテ下ニ相續スル義ニツカフ語也。

ノリ 法 法ヲ立ルハ其法ニナラヒ似セテソムカザラント欲スル也。ノリハ似也。サラヒ似スル義ヲ以テ名ヅク

ル也。ノ*ツトルハ似取也。

ノ 箭幹 シノニテ作ル故也。シヲ略ス。シノハシノ竹ナリ。

ノド 咽 飲門ナリ。

ノタマフ 曰 ノハノルナリ。ミコトノリノノルト同ジ。尊者ヨリ卑者ヘ下スヲスベテタマフト云。ツグルコトヲタマフ也。

ノリト 祝 ノリコト也。告言ナリ。

【校勘】 ○ノ 後からの挿入。

45 b

ノム 吞 トヅ*ル義。トヅト同音。

ノチ 後 音語ナリ。ノハ陰声。チハ裳語。

ノミ 鑿 ノミイル也。

ノミ 蚤 ノミイル也。

【校勘】 ○トヅ (原文「トツ」) 「メト」を見せ消ちして

直す。

46 a

ク部

クニ 国 母語也。郡ノ字ノ声ヲヤハラゲト云ハ誤リ也。クモル 曇 明ノ反也。クモ、陰声ニシテ閉藏ノ義也。ルハ裳語也。

ク スソノ語ニ用ユ。浅ク深クノ類也。ラク、ケク、

シクモ、スソノ辞也。

クル サツクルノ省語ナリ。

クダモノ 菓 木種^{コダネ}物也。コノミ、木実也。

クシ 櫛 御髪トカキテクシトヨム。髪ノ本語ハカミ也。髪ハ櫛スル故ニ貴人ノ髪ヲ尊テコトバヤカヘテクシト云也。凡人ノ髪ヲクシト云コトナシ。

46 b

クラフ 食 クハ口也。ラフハワザナスコトバ也。シツラフ、タメラフ、ナガラフナドト云類也。

クラキ 位 クラハ座也。キハ辞ノスソ也。蔵、枕、鞍、皆クラ也。

クルマ 車 語ノ母也。自然音声ニ義アリ。クルクルハ転動スルカタチ辞也。マハ裳語也。糸^{イト}ヲクルノ類也。

クソ 糞 糟也。転声物ニナツク。

クラ 座 物ヲノセヤク物ヲクラト云。蔵ヲクラト云ハ仮借也。蔵ハノスル義ナケレドモ安置ノ義ニカル也。

クツハヅラ 轡 クツハカヅラ也。

クツハ 銜 口ノ輪也。

47 a

クラ 鞍 馬上ノ座^{クラ}也。

クシヒ 靈妙 奇ヲクシトヨム。

クモ 雲 音語ナリ。

クサカヤ 草 音語ナリ。

クサシ 臭 屎ヨリ出ル語也。クソシキト云義也。クソハ語母也。

クチ 口 紀氏之説ニ音語ナリ。

クミスル 与 相与トカキテクミドニトヨメリ。神代

クダン 件 クダリ也。一下リ、二下リ也。一行、二行ト云ハンガ如シ。

クレナイ 紅花 クレハ呉ナリ。本名クレノアイ也。ア

イハ藍ヲカル。

クチビル 唇 ビルハ扉ノヒラト同ジ。トヂヒラキアリ。ラ、ル、通音。

47 b

唇ハ門ノ戸ビラノ如シ。

クラフ 食 クハ口也。ラフハ作事ノ用語ナリ。

クスス 療 母語也。病ノコレルラクズス也。

クスリ 藥 クズスヨリ出テ藥物ノ名トス。

クスシ 医 クスハ即療也。シハ為也。凡其事ヲ職トシ

テスル人ヲシト云。師ノ字ヲアツベカラズ。画師、樂師、醫師ハ皆漢語ナリ。クスシノシヲ師トスレバ、上ハ和語、

下ハ漢語也。

クチナハ 蛇 クチハ口也。ナハハ繩ナリ。其形繩ノ口^{クチ}アル如シ。

クモ 蜘蛛 天クモレバ必出ヅ。

クツ 沓 ウツ也。中ウツ口也。鞆ノ沓ノ下ニツクル故、下ウツト云。

48 a

ヤ部

ヤイバ 刃 ヤキハ焼也。ハハ齒也。カミキルヲ借ル。又曰、葉ヲ借ル詞。凡扁薄ナル物ヲハト云。

ヤ屋 ヤハ語ノ母也。ヤネト云ハ、ヤハ屋也、ネハ上ノ義也。山ノ極上ヲミネト云也。ヤネハ屋上也。

ヤシロ 祠 ヤハ屋也。シロハ城也。神社ハ高クキヅク、故ニ城ト云也。人ノ屋ニアラズ。人ノ城ニアラザル故ニ、屋ノ如クナル城ト云義也。

ヤカ 辞ノスヘ也。ヤクモ同義也。スクヤカ ミヤビヤ

カ カガヤク* (書眉朱筆)ク、恐カ。

ヤハラカ 柔 ヤハヨハキ也。ラカハスソノ語也。

ヤツガレ 僕 ヤツゴワレナリ。

48 b

ヤドリ 舍 ヤ取ナリ。

ヤ矢 音語ナリ。又、ヤハヤルナリ。

ヤマ 山 音語ナリ。陽声、ヒラク声也。

ヤスム 休 ヤスハ安ナリ。ムハ蒙語ナリ。

ヤヨヒ 三月 ヤハイヨ也。イヨイヨノ省語。ヒハオヒ^生

ノ省語ナリ。此月万物イヨイヨ生出ス。

ヤド 宿 ヤドコロナリ。コロハ裳語ナリ。

ヤグラ 櫓 クラハ坐ナリ。矢ヲ射出スベキ高キ所也。

ヤマビコ ヤマハ山也。ヒコハ響也。

ヤマト 太和 ヤマハ山也。トハ外也。古來伝授ノ説*ナリ。

【注】○古來伝授ノ説『蘭洲茗話』上一六オに以下のようにある。「やまとの訓、山外なるは、予が家伝來の説也。他家の説にいはぬ事也。先考かつて貝原篤信と下河辺長流とにかたられし。篤信は『釈名』をつくりて己が説とし、長流は僧契沖にかたり、契沖『代匠記』をつくりて己が説とせり。」

49 a ヤ 語助也。疑フ詞。又、上下ノ語ヲヘダツル也。

ヤハ 緩語也。下ニラクベキヲ先ニ云也。あかれやはするハ、あかれはするや、あかれはせぬなり。

49 b (なし)

50 a

マ部

マ 真 語ノ母也。正ノ字モマト云、マサトモ云。真正不邪ノ義也。

マナイタ 魚組 マハ真也。ナハ魚也。イタハ板也。マハホル語也。ナイタ也。

マナバシ 魚著* 同上。(書眉朱筆) 箸。

マド 窓 間戸ナリ。

マダキ 未 マダハイマダ也。キハ裳語也。イマダハ未來ノ語ナルユヘニ早キ義ニ用ユ。

マゴ 孫 間子也。マハ一間ヲヘダツル義也。子ノ子ハ我ヨリ一間ヘダタル子也。

マリ 鞠 マルキナリ。

50 b ママハハ・ママコ 繼母・繼子(*以上四語各二語並記)マハ随意ナリ。父ノ意ニ随テ母トシ、夫ノ意ニ随テ子トス。

マナブ 学 マハ見也。ナハ成也。人ノスルコトヲ見テ其如クニ成也。ブハ裳語也。マナビト云ハ定語也。マナブハ用語ナリ。ビ、ブ、皆裳語也。

マスミノカガミ 明鏡 マハホル語也。スミハスム也。クモラヌヲ云也。マスカガミハ、ミヲ省ク也。マハ真也、正也。又不雜也。純白ヲマシロト云。

マクラ 枕 尊敬ノ語也。クラハ坐也。頭ヲノセラク故ニ尊敬シテマクラト云。

マチ 町又街 マハ間也。チハ道也。貝原ノ説也。

マチマチ 区 モコレヨリ出。

51 a

マト 的 眼処也。マナコノツケ所也。又、マハ正也、正中ノ処也。

マモル 守 マハ目也。モルハヲク也。

マツリゴト 政 天下ノ人ヲシテ上命ニマツラハシムル也。

マイル 参 入也。マハ発声也。マミユ、見也、マハ発声也。マフデ、詣也、マイルナリ。

マジル 淆 交ヨリ転ジテ別義ヲ生ズ。

マデ 迄 イタル也。

マニマニ 順 順風ヲ風ノマニマニトヨメリ。風ニマカスル義也。随意トカキテ、マニマニトヨメリ。

ママ マニマニヲ省ク語也。随(ママトヨム) 順流水ノマニマトヨム。

51 b

マカル 死 シノ字ヲカク。

マヌガル 免 ノガルル、通音也。マノ*カルルトモ云。マメ 真実 マハマコト也。メハ裳語也。マコトメク也。

メク、メキ、裳語也。

マキ 牧 馬置ナリ。

マレ人 賓 又マロフド。上同。主人ハ常ニ居、賓ハマレニ来ル。

マナコ 眼 目子也。ナハウツホ字ナリ。

マナジリ 眈又睨 目後ナリ。ナハウツホ字也。

マコト 信又誠 マハ真也。コトハ言也、又事也。イツワラザルコトナリ。マコトト云テ、言、事ニ通ズ。

マメ 大豆 マハマルキ也。メハ穀ニ名ヅクル詞。

【校勘】○マノ「ア」のような字を見せ消ちして直す。

52 a

マサカリ 鉞 マハ正也。サカハ裂也。リハ裳語。

マドシ 貧 音語ナリ。少キ義ナリ。

マッタシ 全 マトケシ也。マトハ^{マド}円也。円満ノ義。ケシハ裳語也。

マツ 松 マハ真也。讚美ノ意アリ。

マエ 前 マハ真也、正也。対シ向ノ義。エハ裳語也。マセガキ マハ間、セハ狭也。間ノセバキ垣也。

マヨフ 迷 マハ目也。ヨフハ醉ナリ。エ、ヨ、通ズ。

明カニ知り明ニ見ル事アタハズ。

マガキ 籬 間ノカキ也。

52 b

(なし)

53 a

ケ部

ケムリ 烟 音語ナラン。

ケダシ 蓋 神代ノ卷ニ出ヘ*タリ。ケダシハ疑ノ詞也。發語ノ詞也。音語。

(書眉朱筆) へ、恐衍。

ケ 氣 漢音ヲ用ユルニ非ズ。相似タル也。メヅラシケ、ニゲナキナド云ケノ字也。サヤケキ、明ラケキナド云ケキノ字ノ*也。

(書眉朱筆) ノノ下脱字、マタ蠹食ニアラズ。

ケダモノ 獸 ケハ毛也。ケノモノ也。

ケル ケル 定ムル辞。

ケン ケラシ 疑フ辞。

53 b

(なし)

54 a

フ部

フハムト通ズ。スソノコトバナリ。

フクム 含 語母也。三字皆陰藏ノ声也。口中ニ物アル象形ノ語也。口ヲヒラケバニツニワカル。其中三物ヲ入テ納藏スル義。

フチ 淵 フハ深キナリ。チハ水也。一云音語ナリ。

フタ 蓋 底フタハフタツ也。物ノ上ニ加ル故ニ一ノ上

ニ一ヲ扣ヘテフタツト云。底ヲミト云ハ、二ツヨリ三ツ*トツツク故ナリ。

フデ 筆 文手也。手ヲ以テ字ヲ作ル器ナル故也。字ヲ書タルヲ手跡ト云、能書ヲヨキテト云、ヒデカキト云。フミ 文 漢字ノコヘ*ヲヤハラゲタルナリ。

【校勘】○ツ この後に「ト云(合字)」を見せ消ちする。

【注】○漢字ノコヘ 冒頭の「和語総論凡例」でも言及する。「中古ヨリ異域ノ音ヲカリテソレヲ或ハ転ジ或ハ變ジテ和語トスルアリ。…フミ 文…ノタグヒナリ。」

54 b

フクロ 袋 フクハフクム也。ロハ裳語也。

フイガフ 橐籥 吹皮也。皮ヲ以テツクリ、火ヲフク也。

フタ又フミダ 札 文ノ板也。

フユ 冬 音語ナリ。

フエ 笛 フハ吹ナリ。エハ枝ナリ。

フミツキ 文月 フミハフクミノ省語。コノ月暑氣ナヲノコリテ人身モ暑氣ヲ*クム。

(書眉朱筆) ヲ下恐クハフノ字ヲ脱ス。

フトコロ 懷 フトキトコロ也。腹ハ豊大ナル故ナリ。

フクロフ 梟 フハ母也。惡鳥ニテ己ガ母ヲクラフ也。

フルシ 古 フルハ歴也。シハ裳語ナリ。

55 a

コ部

コ 子 語ノ母也。音語ナリ。

コ 所 ソココノ類也。ソコハ其所也。ココハ此所ナリ。

コマヤカ 濃 コマカ也。精ノ義也。細小ノ義ニ非ズ。コキハ省語也。

コヅ 去年 コシカタノ年ト云義也。過去ヲコシト云。現在ヲイマト云。未来ヲノチト云。去年ハコシトシナリ。コヨミ* 曆 一年ヲ十二月四時ト云ハ大分ニカゾヘヨム也。曆ハ一日一刻節氣ノツギメマデコマカニカゾヘヨム故ニコヨミト云。ヨムハ数ヲカゾフル也。コマカニヨム也。

コチ 東風 コハコマカナリ。チハ風ナリ。

【注】○コヨミ この説は蘭洲とは違ふ(『蘭洲茗話』上一八ウ「こよみと云はかよみの心、日をかぞふる心也」)。

55 b

コマヌク 拱 手ヲ袖中ニコメ貫也。^{ヌケ}

コトブキ 寿 長生ノ音語ナリ。

ココロ 心 コトバノ母也。紀氏ノ説ニ音語ナリ。

コケ 苔 コマカナルケ^モノ如シ。

コト 事 語ノ母ナリ。

コス 簾 コハコマカ也。コマカナル簾ナリ。

コチ 近路 コハチカキ也。近ノ音ヲ用ユルニ非ズ。

コガネ 金 コキカネ也。

コメ 米 コモルミ也。

コトゴトク 悉 毎々ノ義ナリ。クハ裳語ナリ。

56 a

コシ 腰 音語ナリ。

コアシ 幹 木足也。木ノ本ヲ云。足ハ本也。

コルル 懲 コルハ伐ナリ。伐除テ再其事ヲナサザル也。

コロモ 衣裳 服ノ惣名ナリ。

コト 琴 コハ緊急ナリ。トハ糸也。

コト 事 音語ナリ。

コトバ 詞 事ノ葉也。行ハ如^レ幹、言ハ如^レ葉。

コテ 手冑 コムル手ナリ。

コシキ 甌 コシタキ也。甌ゴシニタク也。峯コシ、山

コシノ如シ。一ツヘダツルヲコシト云。

56 b

コホリ 郡 コハ小也。ホリハワル也。ワルハ分割ノ義

ナリ。大ニワルハ^{コホリ}国ナリ。小ニワルハ郡也。

57 a

テ部

テ手 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

テ代 価ナリ。

57 b

(なし)

58 a

ア部

ア 開清ノ声也。発端ノ語也。ムカイアフク義也。尊敬
 諸*美ノ義也。感歎ノ義也。又、物ヲサシテイフコトバ也。
 (書眉朱筆) 恐讚。

アメ 天 開清ノ声ヲメノ字ニウクル故ニ、自ラ高クヲ
 ヲヒナル音声ニヒビク。尊敬諸*美ノ義、自然ニ其形ニ
 アラハレタリ。アメハ語ノ母ナレバ、声牀ニヨリテ出る
 コトバ也。

(書眉朱筆) 恐讚。

アキ 秋 開清ノ声ヲキノ字ニウクル故ニ、タケテスサ
 マジキ義也。音声自然ニ其時ニアラハルル故ニ語ノオヤ
 也。

アダ 仇 カタキ、通音ナリ。

アサケ 朝明 アサアケナリ。

58 b

アキラカ 明 アキハ空中ニサハリナキ義也。光明ノ義
 ヲカヌ。ラカハ裳語ナリ。

アブラ 膏 シシムラ、肉也。アブラヲアムラトモ云。
 シシムラヲシシブラトモ云。アハ汗ノ類也。フラハ裳語
 ナリ。草木ノ油ヲアブラト云ハ借用ノ語也。肉ヲシシム
 ラト云。液汁ヲアブラト云。

アヒ 相 タガヒ也。タガヒノ省語也。一二曰、アヒハ
 逢也。二人相對ナリ、故ニ二ツ對スルコトヲ借用。

アツマル 聚 アヒツモルナリ。

アクル 夜ノアクルハ開ノ義也。明ラカニナル義ア*リ。
 戸ヲヒラケバ明ラカニナル義ナリ。夜ノアクルヲアサヒ
 ラキト云。アサボラケ、

【校勘】○ア「ナ」を見せ消ちして直す。

59 a

通音ナリ。明ト、開ト、二字義相因トイヘリ。

アカツキ 曉 アカキ也。ツハ空字。

アラレ 霰 アラクフル也。アラハ大ナリ。レハ水ニツ

クル裳語ナリ。

アトコフ 跨 アトハ足ナリ。コフハ越ル也。

アザムク 欺 アハ発語。サムクハソムク也

アブミ 鎧 アハ挙也。フミハ踏也。

アラタムル 改 アラタハ新也。ムルハ用語也。

アグル 上之 音語ナリ。陽声也。

アシタ 朝 開清ノ声ヲナレゆき? 語ニツヅケタリ。ア
 サ、アシタ、同義ナリ。シタト、サト、同音ナリ。シタ、
 早速ノ意也。サモ同

59 b

意ナリ。コトバノオヤ也。

アネ 姉 アニノ転声ニテ、女兄ニ名付ル也。ニ、ネ、
通声ヲ転ジテ姉ノ名ト称ス。男女ノ異アレドモ同ジクコ
ノカミ也。

アラカジメ 預 アラハジメ也。荒初也。

アタラ 惜ム声也。東人ハアッタラト云。自然ノ音

声ニテ語ノ母也。

アリ 蟻 アル也。イヅクニモアル虫ナリ。

アラキバリ 菑 新ニ田ヲ治ル也。治ヲハルトモ訓ズ。

アメ 雨 天ノ和語ヲ仮借ス。

アマツサヘ 剩 餘リ添ル也。

アシ 足 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

60 a

アハヒ 泡* 味アハシ。

アハ 栗 味淡薄*也。

(書眉朱筆)薄。(※右下が「専」になっているのを正す。)

アツモノ 羹 熱物ナリ。

アル 有 陽声ナリ。

アナ 嗚呼 音語ナリ。歎ズル辞。

アマネシ 普 アマハ天也。廣大ノ義、ネシハ裳語。

アト 跡 足形ナリ。

アレマス 生 ムマレマス也。貴人ノ出生ヲ云。

アタハズ 不能 アタラズ也。我力タラズ。故ニ其事ニ

アタラズ。

アヲ 青 音語ナリ。遼遠ノ義ナリ。黄^キ、赤^{アカ}、白^{シロ}、黒^{クロ}、
皆音語

【校勘】○泡 おそらくこの字。原本に虫食いがあつた
らしい。

60 b

ナリ。キハ不独之義也。アカハ光輝ノ義也。シロハ明ニシ

テカロキノ義ナリ。クロハフカキヲサムルノ義也。

アユ 鰻魚 ハユ也。オヨグコトハヤシ。ア、ハ、通音。

ハエト云モ同意。

アヲリ 障泥 アシヲリ也。足ヲアルトコロ也。

アカザ 藜 アカハ赤ナリ。ザハ麻ナリ。形、麻ノ如ク

ニシテ、クキ赤シ。

61 a

サ部

サツキ 五月 サノ字ヲ頭ニナセル辞ニ五月ノ多シ。

サ スソノ辞ニ用ユ。ウレシサ、カナシサノ類也。

サ 狭 セバキヲサト云。セバヲカヘセバサ也。

サブ*ラフ 侍 サハサキ也。フラフハフル也。歴^ル前ニ

也。ハンベルト同意也。

サメ 雨 ア、サ、通音ナリ。

ササ 小 語ノ母也。狭ノ義アリ。狭ヲサト云ハ、ササ

メ、イササカ、少ノ義也。サザレ石、サザ波、イササ小川、此類也。

サカフ 逆 サカサマト云ヨリ出ル語ナリ。タガフ、チガフ、同義ナリ。

サダム 定 語ノ母也。

【校勘】○ブ「ム」を見せ消ちして直す。

61 b

サブルサビ 神サビ、翁ザビナド云ハ成熟ノ義也。

サカユル 栄 サカハ盛也。ユルハ裳語ナリ。

サム 醒 夢サムル、酒ノ酔サムル、寝ザメ、熱氣サムル、スサムル義也。

サネ 核 サハ早キ義。ネハ根也。核中ニ早ク根ザス也。又、サハ小也。実ノ中ニ小キ根アリ。

サミダレ サハ五月也。ミハ雨水也。ダレハ降ル下ル也。サク 裂 分、ワク、同類転声也。

サキ 幸 サイハヒ、サキハヒ也。サチ、幸也。サキ、サチ、通音也。

サネ 使令ノコトバニ用ルコト有。草をかりさねと歌ニヨメリ。

サレドモ 雖然 然ノ字、サト訓ズ。

62 a

サザキ 鷓鴣 サザハ小也。キハ物ニ名ヅクル裳語。此

鳥至テ小サシ。

サザナミ 漪 小波ナリ。

ササメゴト 細語 声ヲホソメテ云。ササハ細小也。

ササゲ 豇豆 ササハ狭小也。ケハ穀ニ名付ル詞。

ササ 小竹 ササ竹ト云ベシ。省語也。ササハ狭小也。

サカナ 鰈 酒ヲ吞時ノナ^{*}也。ナハ菜也。魚肉ニモ仮テ

用ユ。又、ナハ媒ナリ。又、ナハ魚ナリ。

サカヅキ 杯 酒ツキ(杯)也。

サギ 鷺 イサギヨキ義ナリ。

サカキ 賢木 サカハ繁栄ノ義。

【校勘】○ナ「名」を見せ消ちして直す。

62 b

サトル 悟 サハ早キ也。トルハ通ル也。通達ナリ。

サザレイシ 小石 ササハ小也。

ザリケリ ズアリケリ也。ズアヲ約ス。

サツキ 五月 サハ沢也。此月ハサミダレ多クテ処々サハトナル。

サイ^{*}ハヒ 福 サイハ吉也。ハヒハ裳語也。

サキ 先 音語也。サハ陽声、キハ裳語ナリ。

サカリ 盛 サカハ栄ノ義也。

サグル 下之 サハ陰声。

【校勘】○イ「ヒ」を見せ消ちして直す。

63 a

キ部

キ 過去ノ辞也。既ニ見聞セルヲ見キ聞キ云類也。

キ 葱 キト云ハ語ノ母也。葱ノ類多シ。皆下ニキノ字

ヲスヘテ、上ニ義意アリ、差別スル也。

キハムル 極 際ヲ立ルコト也。ムルハ語ノスエ也。キ

ハマリト云モ名号ニナル語ナリ。

キサキ 后 キハ君ヲウケテ云。サハ狭也。小ノ義也。

小君ト云義也。下ノキハイニ通ジテスソノ語ナリ。一説

ニ曰、君^{キキ}幸也。

キヌ 絹 キハホメタツトブ語ナリ。ヌハ布也。絹モ布

ノ類也。本土ニテハ昔先布有テ、絹ハナカリシ也。後ニ

出タリ。故ニキヌヲモ

63 b

布ト云類有。絹ヲホメテキヌト云。衣ヲキヌト云ハ貴人

ノ衣ハ必絹ナリ。故ニ衣ヲモキヌト云。下人ノ衣ヲキヌ

ト云例ハナキ也。

キダハシ 段々ノハシナリ。段ハキダ也。

キツネ 狐 黄ナルニヨツテ名ヅク。

キビ 黍 又キミ。其实ノ色黄也。

キ 木 音語ナリ。

キタナシ 不浄 段ナシナリ。上下淨穢、分別セザル也。

キ 城 言ノ母也。キヅクハ用語也。城築也。

キク 菊 漢語ヲ以テ和語トス。

キミ 君 キハ陽道陽声。ミハ裳語。陰声ノ訓ヲ合セテ

64 a

ヨブ也。又、カミ上ノ転声ナリトモ云。

キタ 北 上世ノ神人、北ニ向テキタト呼ブ。陰ノ発声

也。ミナハ南方也。キタ、ミナ、陽陰ノ二声相對ス。紀

氏四方ノ訓、東ノ条下ニ出。

キサラギ 二月 キハ衣也。サラハ更也。ギハ著也。此

月、寒氣又生ジサヘカヘルコロナレバ、衣ヲサラニキ^{*}

ル也。キハ衣ノ省語也。ギハキル也。二月ニ寒ヲ云、春

ナレバ也。文^ミニモ暑ヲ云、秋ナレバ也。

キ 陽 キハ陽声、ヒラク声。

キリ 錐 キリ入ル也。

キサ 象 キザシ也。芽也。イノキト云ガ如シ。サシハ

刺也。コノ獸

【校勘】○キ「衣」を見せ消ちして直す。

64 b

キバヲ以テサシツク也。シヲ略ス。

キバ 牙 キハツヨキ^{*}意。ツヨキハナリ。

【校勘】○ツヨキ 後からの挿入。

65 a

ユ部

ユシ 語ノスエ*ニテ定ムル語ナリ。

ユフダチ 夏雨 ユフベニナラントシテタダチテフル故也。ユフダチト云語ノ中ニ雨ノ義ナシ。ウタニ、ゆふだちのあめトヨム也。タ立トノミ云テモ雨ノコトニナス也。在明ノ月ノ例ナリ。

ユメ 夢 古書ニイメト云ヒ、ヒイマト云フ。イ、ユ、通ズ。イハ寝也。メハ目也。見也。眠中ニ物ヲ見ル也。

ユキ 雪* 音語ナリ。

ユビ 指 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

ユミ 弓 音語也。又、ユハ行也。ミハ裳語。

【校勘】○エ「ソ」を見せ消ちして直す。○ユキ 雪元「雪 ユキ」で上下の入れ替えを指示する。

65 b

(なし)

66 a

メ部

メ スソノ辞*ナリ。アラメ、ナカラメ、キカメ、イワメナドノ類也。

メド 著 目出也。吉凶ヲ明カニ見ル義也。

メイ 兄弟ノウメル女子ヲメイト云。男子ヲオイト云

フ。相對ノ語也。イト云ハ兄弟ノ子ニ名付ル語ナルベシ。

メヲフト 妻夫 メヲトメフト同ジ。

メ 目 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

メノト 乳母 メハ妻也。トハヲト也。ヲトハ弟也。玉依姫ノ故事ヨリ云ヘリ。

メグム 恵 艸木ノメグムヨリ出ル詞也。メハ芽、クムハ含也。芽ヲ

【校勘】○辞「語」を見せ消ちして直す。

66 b

フクメ* バ其木必シゲル也。人モ愛ヲフクメバ人必ヨロコブ。

67 a

ミ部

ミ 尊敬ノ義、深奥ノ義、広大ノ義也。大ノ字、皇ノ字ヲミト訓ズ。大山ヲミヤマ、深山ヲミヤマ、深雪ヲミユキ、大雪ヲミユキ、深谷ヲミタニ。又スソノ辞也。冷シミ*。

(書眉朱筆) 冷シミノ下恐クハ脱文アラン。

ミヤコ 都 ミハ御也。ミヤコハ宅地*也。天子ノ居処ナルガ故ニ御ト云ナリ。所ヲコト云也。ソコカシコ、コ

コト云如シ。宮前也。

ミヤ 宮 御屋也。天子ノ居ヲ云。

ミナハ 泡 ミヅノアハ也。約語也。

ミヤラカ 殿ノ字ヲカク。宮也。ラカハ裳語也。一説ニ

ミイラカ也ト云ヘリ。

ミササギ 陵 ミハ御也。天子ノ墳ナル故ニ尊敬ノコト

バ也。ササハ小也。

【校勘】○メ「ム」を見せ消ちして直す。

67 b

キハ城也。天子ノ墳墓ナル故ニ御小城ト云也。

ミヅ 瑞 見出也。吉祥ナル義ニ云。目出タキ、珍シキ

ナド云同意也。

ミカド 天子 御門也。

ミクシ 首 ミヲソヘテ貴ミ、ララ略スル也。

ミルマサカリ 顧眄^{*}之間也 神代ニ有見聞^{ミルマサカフ}逆之義也。

下ノリハ裳語也。見^レ前者目之順也。見^レ後者目之逆也。

ミテクラ 幣 ミハ尊詞、テハ手也。クラハ坐也。神ノ

来臨スル所也。

ミマカル 死 身罷也。平人ノ死ニ云。

ミマシ 帝座・御席（^{*}以上二語並記） ミハ貴ブ辞。マ

シハマシマス也。天子ノ席也。席ハ座具也。

ミメ 妃 御妻也。

【校勘】○眄 右部が「聘」の右部になっているが改めた。

68 a

ミワ 神酒 此ニテミワトヨム。

ミトラシ 御弓 天子ノ弓ナリ。ミハ御也。トラシハ執

也。

ミハカシ 御劔 天子ノ劔也。ハカシハハク也。シハ名

称ノ裳語也。

ミネ 峯 ムネ 棟 転声シテ義同ジ。

ミチ 一名チ 路又道 ミハ大ノ義也。又、深遠ノ意アリ。

チハ音語ナリ。ミハ後ニ加ヘシ語ナリ。チニハ一定不変

ノ意アリ。

ミサゴ 雌鳩 イサゴ鳥也。ミ、イ、通ズ。ノ^{*}サゴノ

上ニ好テ居也。鳥ヲ略シテ呼ブ。

（書眉朱筆）上ノ、恐イ。

ミヅ 淡水 音語ナリ。

ミヤビヤカ 麗 觀美ノ義ナリ。

68 b

ミナト 水門 舟ノ入ル水ノ戸也。

ミヤケ 御宅 ミヤラカノ省語ナリ。

ミコト 尊 御子也。トハウツホ字、又一説。

ミミ 耳 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

ミコトノリ 勅 御言告ナリ。ノリハ告ル也。

ミソギ 禊 ミハ水也。スス^{*}ギハ洗也。水辺ニ限ル也。

ミ 実又子 音語ナリ。

ミヅクキ 筆 筆ノ管ハ草ノクキノ如ク墨水ヲフクム。

ミナミ 南 上世ノ神人、南ヲヨンデミナト云。陽ノ発

声也。東ニヒノ字ヲ加ヘテ三言トス。故ニ南ニミノ字ヲ

加ヘテ三言ト

【校勘】○ス(原文「・」(踊り字)) 「ソ」を見せ消ち
して直す。

69 a

ス。東南ハ陽ノ方也。故ニ陽ノ数トス。西北(ニシキタ)

ハ陰ノ方、故ニ陰ノ数ニシテ二言也。東ハヒヲ上ニ加ヘ、

南ハミヲ下ニオク。東南順転ノ義也。

ミナ月 六月 ミハ水也。ナハ無也。酷熱ナレバ五月ノ

沢水モ皆カレテ水氣一点モナシ。

ミギリ 右 ミギハ陰声也。リハ裳語也。

ミ 陰 ミハ陰声。トゾル声。

ミナシゴ 孤 ムナシゴ也。父母ナクテムナシク子ノミ

有也。

ミヲツクシ 水標 ミヲハ水ノフカキ也。ツクハ告也。

標ヲ立テ水ヲ人ニツグル也。シハ裳語ナリ。

69 b

(なし)

70 a

シ部

シ 過去ノコトバ也。

シホ 塩 潮ウシホヲ借用ユ。

シホ 椎 漢字ノ声ヲヤハラグ。スイヲシイト和グ。

シグレ 冬雨 冬ノ雨ハシクシクフル也。シクシクハ頻

数ノ義ナリ。レハ雨ナリ。

シヅ 賤 シハ下也。ヅハ人也。下人ト云義、シトウド

也。下人ヲシモベト云フ。ヘハ人也。

シバシ シバラク也。

シコチ 譖 シコハ悪也。シコメト云シコ也。人ヲ惡ト

云ナスヲ云。

70 b

シコチハ定語也。シコヅルハ用語也。

シメナハ シメハトノ字ノ*義也。所々*シルシシテ定

ムル也。地ニ木ヲサシテシメサスト云。

シバル 縛* シボムル也。シブル、シムル、同上。

(書眉朱筆) 縛。

シノブ 忍 堪忍ノ義也。又カクルルノ義。又思慕ノ義。

一訓三義也。

シモ 霜 雪霰ハ天ヨリ下ルヲミル。霜ハ天ヨリ下ルヲ

ミズ。人ノミル所、下ニアル故也。一曰音語ナリ。

シホ 海水 音語ナリ。

シマ 島 海水ノマ也。シハシホナリ。マハ間也。川ノ島ハ借用ユル也。

【校勘】○字ノ「字之」を見せ消ちする。○々「二」かもしれない。

71 a

シロ 城 音語ナリ。

シフト 舅 婿ヨリシタシフ人ト云。ムコヲ舅ヨリムツブコト云。

シタ 舌 紀氏ノ説ニ音語ナリ。

シタガフ 従 シタハ下也。イヤシキ者貴人ニシタガフ也。人ニ同ズル借用ユ。

シタウツ 韃 下グツ也。

シモ月 十一月 シモハ下也。下月也。十月ヲ以上トスレバ、十一月ハ下也。十ノ後ノ月ナリ。故ニ復^ル也。二下ニ於

一ナリ。然バ正月ハ一月也。何ゾ下月ト云ハザル。日、正月ハ月ノ最初也。下月ト云ベカラズ。十後ノ一ハ

則下也。最初ノ一ハ下ニ非ズ。凡事最初ニハ上下ナシ。一ハ数ノ初也。故ニ上下ノ義ナシ。

71 b

シハス 十二月 シハハ暫ナリ。スハ走也。シバハス月也。

コノ月ハ一年ノ功終テ来歳ノ経営ヲナス多事ノ月ナリ。但光陰ノ速ナルヲ覚フ。然而暫ノ間ニ奔走シテ過サル故ニ暫走月ト云。

シリヘ 後 シリハウシロノ転声。ヘハ裳語ナリ。

シラミ 虱 身白キ也。

シガラミ 柵 イシガラミ也。

シホリ* シルシニナルナリ。深山エ入ルニカヘル途ノシルシノ為ニ枝草ナドシルシ折ヲクナリ。

(書眉朱筆) シホリノ条、別人附記スル所カ。書法、墨色同ジカラズ。前出カラノ条トモ同ジカラズ。何人ノ記ス所ナルヤ詳ナラズ。

72 a

ヒ部

ヒ 陽声也。アキラカナル義、尊敬之義アリ。凡コノ字ヲカシラニナセル語ハ尊敬諸*美ノ詞ヲヲシ。彦、姫、聖ナドノ類也。

(書眉朱筆) 恐讚。

ヒ 日 コトバノ母也。

ヒガシ 東 上世ノ人、東ニ向テカシトヨブ。カハ陽ノ発声也。シハ裳語ナリ。ヒハ後人ノ所加也。ヒハ尊ノ語。四方、東ヲ以テ為^レ初也。一説ニ日出之方故ニ日ヲ上ニ加フ。紀氏ノ説*ニ、東ハ日初出処、日ノ頭也。西ハ日往也。

往ハイニシ也。南ハ天地万物皆見ユ。北者日没此ヨリ又出来。今熟思スルニ此説後人(72b)臆度之義、音語ヲ滅シテ末論ヲ立ル者ナリ。

【校勘】○譜 欄外朱筆に言うように「讀」が正しいはず。

【注】○紀氏ノ説 北以外は益軒『日本釈名』と清原宣賢『日本書紀抄』が合う。

72b

臆度之義。音語ヲ滅シテ末論ヲ立ル者ナリ。

ヒトツ 一 ヒトハ語ノ母也。ツハウツホ字也。二ツ、三ツ、四ツ、五ツ、六ツ、七ツ、八ツ、九ツ、トヲ、ミナヒトツノ例也。

ヒナ 鄙 ヒハトウトキ也。ナハ無也。鄙ハ貴キコトナシ。故ニイヤシム義ナリ。

ヒヂリ 聖 物ヲヨクシル人ヲヒヂリト云。ヒハ彦也。人ヲホメテ云詞也。シリハ知也。シルト云ハ語也。シリト云ハ人ニ定ムル詞也。物ヲシルト云ハ語也。物シリト云ハバ人ニ名付ル詞也。智ノ人ヲヒヂリト云。

ヒオホヂ 曾祖父 ヒハ加ル義也。祖父ヨリ一代加ル也。ヒマゴ曾孫義ヲナジ。

73a

ヒラク 開 ヒラハ陽声也。クハ裳語也。

ヒ火 日ノ和語ヲ仮借*ス。

ヒキユル 帥 引也。ユル、裳語也。

ヒタ 直 ノ字ヲカク。『万』*ニ直土トカキテヒタツチトヨム。直土ヒタツチにワラ藁ときしきてトヨメリ。地上ニジキニワラヲシ*ク也。

ヒコバヘ 藁 孫ノ子ヲヒロト云。ヒロ*バヘハコレヲカレリ。

(書眉朱筆) ロ、恐コ。

ヒバリ 日張ナリ。晴天ニハリ上ル也。

ヒチリコ 泥 ヒチリハ日照ナリ。早ノトキ、水カハキテ泥土トナル。コハ裳語ニシテ物ニ名付ル字。

ヒキシ 卑 陰声也。音語ナリ。

【校勘】○仮借「仮(假)用」の「用」の横に「借」とある。○シ「オ」を見せ消ちして直す。

【注】○『万』『万葉集』卷五892「…直土(ひたつち)に藁解き敷きて…」、卷十二3295「…直土(ひたつち)に足踏み貫き…」。

73b

ヒト 人 音語ナリ。

ヒザマヅク 跪 ヒザマサニツク也。

ヒザ 膝 音語。紀氏ノ説ニ音語ノ義不伝*。(書眉朱筆) 伝。

ヒヂ(ママ) 髭 日毛ナリ。

ヒダリ 左 ヒタハ陽声ナリ。リハ裳語ナリ。

ヒヅメ 蹄 ヒハ一也。爪ニマタナクシテ一ツ爪也。

ヒツギ 棺 ヒツハ人也。人木也。

ヒ 間・校 義ヲ相カル。間ハ水ヲトホシ、校ハ糸ヲトホス。

ヒトゴコロ 儔 ヒトハヒトシキ也。コラ（ママ）フハ

クラブル也。

ヒトシ 齊 ヒトハ一*也。シハ裳語。

【校勘】〇一「人」を見せ消ちして直す。

74 a

ヒメ 姫 彦ヲウケ*テ云。女ノ尊称ナリ。

【校勘】〇ケ「チ」に見えるが改めた。

74 b

(なし)

75 a

モ部

モロコシ 漢土・唐（*以上二語並記）モロコシ 諸越也。本土ヨ

リ漢土ヲミレバ、外国ニスグレコユルニ因テナリ。又、

諸事諸物ニスグレコユル義也。本土ヨリホメテ名付也。

昔ハモロコシヘ人ヲヤリテモノナラハシメタル也。讀

美スルモコトハリ也。

モロモロ 諸群ノ義也。ムレ、モロ、同音也。モロモロ

ト重複スルハヲヤキ義ナリ。

モミ 米ノミゴモル故ニ云。モハコムル也。中ニ実ヲコ

メタルユヘニ云フ。コモリノ義也。

モ 裳 コロモ衣服ノ物名ナリ。裳ハ下ニアル故ニコロモノ下ニ有モノ一字ヲトリテ用。

75 b

モチヅキ 望 モチハミチ也。充也。又日月相持ノ義ナ

リ。

76 a

セ部

セ 瀬 脊ヲ借用譬喩ス。脊ハ人ノ体ニヲヒテ高シ。水

中ノ高キ所ハ水必浅シ。故ニ深水ノ処ヲ淵ト云ヒ、浅水

ノ処ヲ瀬ト云。

セムル 責 セマル、迫、転ジテレ声ヲ異ニスレ義ヲ。

セ ウツホ字ニ用ユルコトアリ。ウツセガイナド也。貝

セキ 関 音語ナリ。セク、フセグノ詞此ヨリ出。

セ 脊 紀氏ノ説、音語ナリ。

セハセハシ 約 セマル義ナリ。

75 b

(なし)

76 a

ス部

ス 洲 語ノ母ナリ。

スク 鋤 下ニアルモノヲ上ル義也。土ヲヲコシ揚ル也。
スクフ 救 鋤ヨリ出ル語ナリ。人ノ凶ニナルハ下ル也。
下ルヲ上ヘ揚ルハ凶ヲ書*ニナス義也。魚ヲスクフ、人
ヲ救フ、田ヲスク、皆一義也。
スクヤカ 健 スクハ強剛也。ヤカハ裳語ニシテカタド
ル語也。

スベラキ 皇 スベハスブル也。天下ヲ統ブル*也。ラ
キハ語ノスソニテ、尊テ重ル也。一説ニ総陽ナリ。
スズ 鈴 音声ヲカタドル義也。

スダレ 簾 スハ竹ニテアミタル物ヲ云也。タレハ垂^{タル}也。

【校勘】○書「書」に見えるが未詳。○統ブル 原文は
「スブル」の上に「統」の挿入を指示する。

76 b
スズリ 硯 墨スリ也。

スミ 炭 音語ナリ。

スミ 墨 炭ヲカリモチユ。

スガタ 姿 スハ総ナリ。形ヲスベテスガタト云。

スマヒ 相撲 漢語ヲ転ジテ用ユルナリ。

スズミ 雀 スズハ小也。ミハ物ニ名付ル字。

スモモ 李 形桃ニ似テ味スシ。

スデニ 已 過歴ノ義ナリ。

スナハチ 即 スナハ直也。直ニサス詞也。

スコブル 頗 スコハ少也。フルハ裳語ナリ。

77 a

スギ 杉 直木ナリ。

ス 酸 音語ナリ。アツマツテ将^レ出ノ義也。ニガ、
アマ、カラ、シハハユ、皆音語ナリ。ニガハハゲシクク
ルシムノ義、アマハヤスキ義、カラハ離散ノ義、シハハ
ユハシジマリオサマル義。
スズキ 鯿 其形スズシクイサギヨシ。

77 b

〔奥書〕・

此書ハ五井持軒先生遺書ニシテ令嗣蘭州先生ヨリ祖父老
大人ニ被貽候書ニ候。持軒先生ハ五井嘉助殿之事ニ候。
祖父正立老大人之師也。蘭州先生ハ嘉助殿之子息藤九郎
殿ノ事ニ候。浪華ノ大儒ニシテ高名之人ニ候。右之訳ニ
テ当家ニ致所持候。可致大切候事。